

令和 6 年度 幼稚園における学校評価（自己評価）結果報告書

令和 6 年度、幼稚園において実施した、学校評価結果を報告いたします。

※ 幼稚園教職員により評価項目を設定、令和 7 年 3 月、教育活動および学校運営に関して自己評価を行いました。

【聖徳大学附属第二幼稚園】

1. 学校の教育目標

建学の精神 「和」

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

本園の幼児像「いつもにこにこ元気な子ども」を教育目標とし、 以下の 5 つを具現化し、日々の保育を行う。
1. 健康でたくましい子どもに
2. 誰とでも仲良くできる子どもに
3. しっかりと約束の守れる子どもに
4. あいさつのできる子どもに
5. 自分で考えて行動のとれる子どもに

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価結果の表示方法	
◎	目標点を大きく上回る
○	目標点に達する
△	目標点に届かなかった
×	施策を実施出来なかった

評価項目	結果	理 由								
- 食育は本園の教育において重要な項目のひとつと考え、食べることだけでなく、座り方、食べ方、所要時間など食事のマナーを身につける。 - 箸づかいの評価基準を設定し、その結果を保護者に伝え、連携を図り、卒園時までに 90%の園児が習得できるようにする。 （「小さいときにおぼえておきたい生活のやり方」参照）	△	<箸の調査結果>正しく扱える園児（令和7年3月） <table><tr><th>満3歳児</th><th>3歳児</th><th>4歳児</th><th>5歳児</th></tr><tr><td>10% (3人)</td><td>32.6% (14人)</td><td>40% (24人)</td><td>86.4% (38人)</td></tr></table> - 食育として楽しい雰囲気の中で食事ができるよう、そして安全な環境を保てるよう、排せつ、手洗い、椅子の持ち方など、食事をする前から食事をする雰囲気を感じ、落ち着いて食事ができるよう環境を整えた。しかし、立ち歩いたり、肘をついたり、じっと座っていられなかったり、食事のマナーについての意識が低く、個別の指導に時間を要した。繰り返し声をかけたり、ほめたりしながら対応することで、1学期で身についてきていた。 1人ひとりの状況に応じて配膳の量を調節し、『既定の量を全て食べる』ことよりも、達成感や次への意欲、今後の給食に期待できる環境づくりを優先し、偏食の改善や既定の量を食べられるようになった園児も多く、成長が感じられる。	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児	10% (3人)	32.6% (14人)	40% (24人)	86.4% (38人)
満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児							
10% (3人)	32.6% (14人)	40% (24人)	86.4% (38人)							

		・環境に慣れ食事のマナーも身につけてきた頃から箸指導を進めた。個別にかかわり、年齢の低い園児には、ご飯をラップで丸めたり、箸で食べやすいようにしたりして配膳した。長期休暇に入る際は、家庭での取り組みを促したことで、上達した幼児も多くみられたが、目標値には達することができなかった。 ・保護者アンケートによると『給食の量が少ない』とのご意見もいただいた。ホームページや園内で展示する給食サンプルは、4歳児の量である。食欲のある園児には、盛り付け量を増やしているが、給食は基本的に年齢にあった健康的なカロリーで提供させていただくため、帰宅後の捕食をご家庭で対応していただきたいと考える。
・基本的生活習慣の自立 【排泄・衣服の着脱・挨拶の項目において自立を目指す。】 (「小さいときにおぼえておきたい生活のやり方」参照)	○	【満三歳児】 ・令和6年度、満三歳児クラスで入園時にパンツで登園できた園児は4.1%(1名)だった。ほとんどの園児がオムツを着用しており、入園と同時にトレーニングを開始し、個別の対応を進めた。個々の状況を把握し保護者と連携し、3月には、失敗はあるものの93.0%(28名)が、園内ではパンツ生活ができるようになり、大きな成長が見られた。 【三歳児】 ・毎日体操服を持参することで、衣服の着脱の自立を促した。今年度衣服の着脱において90.9%(40名)の園児が自立できた。登園後自分で着替えをする経験を重ねることで効果が出たと思われる。 ・冬になるとスパッツを着用している園児が多くなり、制服のズボンや体操ズボンなどを着用し、排泄が間に合わなかったり、排泄後のズボンの着方、シャツの始末などに苦戦したり、だらしない服装のままで過ごす園児が多くみられた。スパッツを履かずに過ごせるよう、裸足の良さを伝えたり、レッグウォーマーなどの着用で改善できるようにしていきたい。 ・現代の状況から一般の方から着替えの様子が見えないよう、廊下側の窓ガラスに目隠しをし、スカートを着用する場合パンツが見えないよう『オーバーパンツ』の着用を呼び掛けた。今後も、園児の人権を守りながら、対応していく。 ・園だよりや個別面談などを活用し、着脱の自立に向け家庭でも経験ができるよう、伝えた。全員が第1ボタンまでとめられるようになり、自立へと繋がった。 【四歳児・五歳児】 ・登園時のあいさつについて、バス内であいさつができるよう声をかけることで、玄関でのあいさつは元気に大きな声で言えるようになってきた。また、年長児を中心に園内にいる先生や友達に対して挨拶をする『あいさつ運動』を進めた。その姿を見ていた4歳児が模倣し、挨拶を通して友達や先生と関わり、コミュニケーション能力の向上にもつながったと感じる。 ・4歳児では、自ら挨拶をすることができる幼児は90.3%(56人)、このうち状況に見合った挨拶ができる幼児は85%(51人)となった。朝の合同保育や5歳児の挨拶当番の姿を見ることにより、挨拶をするということが習慣として身に付いたように考える。 ・五歳児では、自ら挨拶をする幼児が90.9%(40人)、このうち状況に見合った挨拶をする幼児が52.3%(23人)であった。 ・当番活動や手紙ごっこを通じ、異年齢とのかかわりをもてるよう援助し、様々な幼児が自ら挨拶をできるようになった。

子どもの自由な発想や思いを表現し、主体性を高められる活動環境を整える。	○	【製作あそび】 - 自由に自分の発想を表現できるよう、家庭から箱やパックなどを持参していただけるようお願いをしたところ、多くの家庭からご協力を得ることができ、たくさんの材料が集まってきた。各保育室に設定してある本園オリジナルの『製作台』を大いに活用し、折り紙・紙テープなどの補助教材を自由に使いながら製作活動ができるよう環境を整えた。 【発表ごっこ】 - 製作遊びの経験を重ねると、五歳児では服を作りステージで発表する『アイドルごっこ』という幼児主体の遊びへと発展した。これに興味をもった四歳児がペンライトを作り、学年の垣根を超えたかわりができた。舞台構成を考え、遊びを自分たちで作り上げ、その満足感を感じ大きな成長が見られた。 【言葉あそび】 - しりとりあそびや言葉集めが盛んであることから、50音カードを作成し、個人やグループで言葉あそびをした。 4、5歳児では、言葉集めを毎日行い、ひらがなへの興味関心が高まった。また、しりとりをリズムあそびに取り入れるなど、あそびの充実を図ることができた。 【お口の伝言】 - 幼稚園で必要なものを教師から園児に伝え、帰宅後園児が保護者に伝える『お口の伝言』を実施した。自分で言えた達成感を味わいより、家紋、縄跳び、タイダイ染めのTシャツなど意欲をもって活動に取り組むことに繋がった。初めは単純な伝言から、そして少しずつ複雑になると、自分で忘れないよう紙に書き、そのメモを持ち帰るなど、文字を読んだり書いたりする活動にもつながった。 【リズムあそび】 - 一年の集大成としての発表会『たのしみまショー』では、全園児が友達と一緒に学年毎リズム遊びに参加し、ストーリーの中での動きやセリフ、大道具操作などの役割を理解しながら責任をもって参加することで、達成感を感じ自立心に繋がった。 - 自由遊びの中でリズム遊びに親しむ姿が見られた。台詞や踊りだけではなく、片づけの時にも「リズム遊びの音楽をかけて」と声があがるようになり、様々な場面でリズム遊びに親しみを持っていた。 - 生活発表会やたのしみまショーで使用する大道具や小道具の作成に対し、幼児が興味をもち教師と一緒に手掛けるという姿が多く見られた。それをきっかけに、自らリズムあそびを展開したり、毎日の活動に期待をもち進んで準備を行うなど一人ひとりが意欲をもって活動に取り組むようになった。教師から声をかけるのではなく、幼児が興味をもてるような環境を取り入れたことが主体性を高めるきっかけになったと考える。 【ちびっこ劇場】 『たのしみまショー』を終えてからも、幼稚園内でリズム遊びを見せ合う『ちびっこ劇場』を行った。年齢の低い学年でも長時間にわたる他学年のリズム遊びに興味をもち、真剣に観る姿があり、幼児同士の伝え合いは幼児の記憶に強く残り、それを模倣し、実現しようとする幼児主体の活動へとつながると感じる。 - 主体性につながる、意欲や協調性などの非認知能力を数値化することは難しいが、確実に幼児ができるようになったことが増えており、主体性は高まってきていると感じる。
---	---	--

・安全に遊ぶことができる環境づくりや感染症対策を進める。	○	・新型コロナウイルス感染症が 5 類へと移行し、他の感染症と同じ対応となった。行政からの感染防止対策指導を受け、消毒や換気に対し意識しながら適切な対策を継続した。アンケートによる感染症対策の保護者満足度として 97.0%の方からご理解いただくことができた。アンケートでは『病院受診の際、流行っている病気について聞かれるため、情報が欲しい』とのご意見があった。流行の兆しが見えてきたときには、『健康だより』として、アプリメールを配信したが、今年度は、特に大きな流行がなかったため、保護者への情報として提供することがなかった。 ・園内の施設、遊具等について、園児が安全に遊ぶことができるよう、掃除を通して点検を行い、活動状況を確認し劣化防止のためペンキを塗りなおしたり、部品を変えたりするなど安全管理をすすめた。 ・感染症罹患後、登園する際についての報告方法もアプリ登録対応（登園届）となったが、紙での提出や、登園届の登録もせずに登園する保護者もあり、若い園児の集団が安全に過ごせるよう、感染対策についての周知を再確認する必要がある。 ・今後も状況に応じて安全対策の改善を含め、適切に進めていく。
-------------------------------------	----------	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理 由
○	・本園の教育、運営等について、令和 7 年 3 月に実施した「幼稚園に関するアンケート」結果から 98.8%の方からご理解頂き、おおむね満足して頂くことができたと感じている。特に『先生は、お子様の生活習慣や遊びを大切にしていますか？』『教職員の言葉遣いや身だしなみは適切ですか？』の問いには、「はい」「まあまあそうだと思う」を合わせて 100%の方々からご理解を頂くことができた。園児一人ひとりのかかわりを大切に、教育を進めようとしている教職員の思いをご理解いただけたことは大変嬉しく感じ、今後も保護者の期待に応えられるよう、安全で楽しい幼稚園生活、そして聖徳教育を進められる環境を整えていく。 ・「幼稚園の行事を通してお子様の成長を感じましたか」という質問では「はい」「まあまあそうだと思う」を合わせ 98.8%の保護者の方々が、お子様の成長を感じることができたと回答を頂いた。それぞれのお子様が集団の中で自己発揮し、友達と仲良く関わったり一緒に活動することの楽しさをあじわう経験から、何が育ったのか、特に表面的に見えない非認知能力が育っていることをご理解頂けるよう、保育の可視化を進め工夫することが大事だと考える。 ・「預かり保育（ドリームキッズ）は、役立っていますか？」の問いについては、97.0%が役立っていると回答をいただいた。年々預かり保育の利用者も増えているため、充実を図る必要がある。特に『おやつの量が少ない』とのご意見もあり、長時間の預かりについては、おやつの工夫も検討していく。 ・『幼稚園の『小さいときに、覚えておきたい 生活のやり方』（箸指導含む）は、役立っていますか？』については、96.3%の方が役立っているとお答えいただき、給食アンケートなどでも『箸を持てるようになって、嬉しい。』と評価を得ている。今後も、箸指導をすすめ多くの園児が卒園までに正しく持てるよう、そしてそれをきっかけに意欲的になれるよう、指導を進める。 ・今年度は、病のため 2 クラスで担任交代があった。園児や保護者に対しご心配・ご不安を与えてしまったことには、大変申し訳ないと感じている。後を引き継いだ担任は、園児に寄り添い精一杯対応させていただき、園児・保護者との信頼関係も築けたと感じている。今後も、教職員の健康管理・対応をさらに強化していく。 ・本園の理想とする幼児像『いつもにこにこ元気な子ども』の実現のため、保護者の方々のご理解とご協力を得て進めることができ、園児の育ちに繋がったと考える。しかし、行事や保育の中でいくつかのご意見もいただいている。例年と同じではなく、園児を取り巻く状況を考慮しながら、園児、保護者の思いに寄り添い、対応できる部分は改善しながら『聖徳教育』を進められるよう今後も対応していく。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
・園児主体の保育環境を整える。	・安心した気持ちで登園できるよう、スキンシップを大事にしながら園児の気持ちに寄り添い、自己発揮できる環境を設け、また、園児一人ひとりがもっている発想、自由に表現することの楽しさを感じ、安心して表現できる環境を整える。 ・集団生活での約束を理解できるようにし、規範意識を高め、自分のことは自分でやろうとする自立心を育て、自由に遊べる環境を整える。 ・自由に遊ぶためには、約束を理解し守ることの大切さを伝え、危険な場合には、すぐに対応できる環境作りを心がけ対応していく。 ・CDデッキを操作して音楽を自分で自由に流したり、楽器に触れたり、いろいろな材料を使って自由に製作を楽しむ環境を整える。特に製作については、園児の身近にある牛乳パックや箱、カップなどを利用し、安心して遊べる環境を作る。 ・園児の思いや興味・関心をとらえ、カリキュラムを基準にしながら園児主体の保育を進め、遊びを通して学べる環境を整える。そして、何が育ったのかをポートフォリオなどで可視化し保護者に伝える。
・子育て支援の充実	・保護者が安心して子育てできる環境は、園児の成長にとって大きな効果がある。保護者も安心して我が子を幼稚園に送り出せるよう、受け入れや、気軽に声を掛け合い相談できる場として幼稚園の役割を進めていく。 ・食育として食事マナーや正しい箸の持ち方の習得、偏食の改善を進めながら、令和6年度は週5回の給食提供を行ったことは、とても好評だった。子育て支援の充実を図るため、給食や預かり保育などを充実できるように今後もすすめる。 ・未就園児の保護者対象に本園の教育に興味をもちご理解いただけるよう、ホームページやLineなどで情報を広く伝え、休園日などを利用した園内の活動（SEITOKU オープンキンダーワールド）を実施していく。また、幼稚園の教育、良さを感じて頂けるよう、園内見学などを実施し、さらに、『子育て広場』や近隣施設との連携をすすめる。
・預かり保育の充実	・安心、安全な預かり保育の充実を図り、遊びを通して育ち学べる環境を整える。 ・他学年との関わりを通して学べる事や成長していることについて、保護者に認識していただけるよう、ホームページなどで伝えていく。 ・就労状況に関わらず、保護者がリフレッシュできる環境の一つとなるよう、預かり保育の安全と充実を図りながら環境を整えていく。